

## 平成 30 年度 第 1 回福岡大学病院医療安全監査委員会

日 時 平成 30 年 7 月 30 日 14 時～16 時  
場 所 病院本館 腫瘍センターミーティング室  
出 席 者 監査委員会：〔委員長〕古賀和徳・松野修一・高橋一久（産業医科大学病院）、  
林覚竜（南蔵院）、田中正利（院内委員）  
福大病院：井上亨、坪井義夫、山浦健、小吉里枝、鷲山厚司、濱松美香、  
兼重晋、八尾好純、中村伸理子、深掘丈夫、石田頼識

### 監査事項

#### 1. 資料確認

- (1) 平成 29 年 4 月以降に発生した 3b 以上の事例 1 例
- (2) 医療安全管理委員会の資料・議事録
- (3) インシデント、アクシデントの統計に関する資料
- (4) 死亡症例報告に関する資料
- (5) 高難度新規医療技術の申請及び該当性のプロセスとモニタリング状況
- (6) 未承認新規医薬品等の審査・実施状況確認を行った際の資料
- (7) 医療安全内部通報に関する資料

#### 2. 現場巡視

### 【講評】

#### 1. 資料確認

- (1) 平成 29 年 4 月以降に発生した 3b 以上の事例 1 例

「腹腔鏡下子宮摘出術後に下腿コンパートメント症候群をきたした事例」に関して、事例発生時の報告体制、事例検討会の内容（議事録で確認）、再発防止策の立案やその実施状況の確認まで行われており、事例を基にした PDCA サイクルがうまく機能していると感じた。インフォームド・コンセント(IC)記録の項では、IC 同席家族の続柄等を必須とするシステム改修も行われていた。事例検討会の出席者が少なかったため、実際に現場で対応した関係スタッフをできるだけ多く参加させるよう工夫していただきたい。

- (2) 医療安全管理委員会の資料・議事録

医療安全委員会は適切なメンバーで構成され、機能的に運営されていた。医療安全管理委員会の委員長については内規上で不整合がみられたので、修正するよう指導した。

(3) インシデント、アクシデントの統計に関する資料

医師からの報告（全体の 8.2%）が増加傾向にあり、報告文化を浸透させるための努力の跡がみられた。ただし、病床数から考えると報告総件数は 3 千件台に留まっており、事象レベル 0 のポジティブ報告をさらに増やすよう、よりいっそうの推進が望まれる。

(4) 死亡症例報告に関する資料

死亡症例の検討（カルテレビュー）については医療安全管理部のメンバー（専従医師、専従薬剤師、専従看護師）で適切に行われており問題ない。執行部会で情報共有やさらなる検討も行われている点も非常に良いと感じた。

(5) 高難度新規医療技術の申請及び該当性のプロセスとモニタリング状況

高難度新規医療技術評価委員会に関しては、医療倫理委員会をもってこれに充てているのを確認した。高難度新規医療技術として申請された「内視鏡手術支援ロボットを用いた食道癌・胃癌・直腸癌手術」に関する審議について、医療倫理委員会審査議事録を確認したところ、評価や審査は適切になされていた。

(6) 未承認新規医薬品等の審査・実施状況確認を行った際の資料

未承認新規医薬品等の審査については実績がないものの、上記と同様、医療倫理委員会が審議することとなっているのを確認した。

(7) 医療安全内部通報に関する資料

未だ通報事例はない、とのことであった。内部通報窓口（公益通報窓口）に関する項目が医療安全管理マニュアルにも記載され、周知も図られているので問題ない。

## 2. 現場巡視

消化器外科病棟並びに呼吸器外科病棟を巡視した。医療安全情報、セーフティーマネージャー会資料等の職員への周知が徹底されているのが非常に印象的であった。放射線レポートの確認漏れについては、電子カルテシステム改修を行うなど高い意識をもって積極的に取り組んでいる現状が確認できた。ナースステーションに防犯カメラが設置されていないが、防犯対策や患者・職員の安全確保の一環として検討していただきたい。

以上

平成 30 年 11 月 7 日

福岡大学病院医療安全監査委員会

委員長 古賀 和徳

（産業医科大学病院 医療安全管理部長）